

# NPO法人 障がい児・者の学びを保障する会



( 所在地：東京都練馬区 )

**事業名** 社会（地域・福祉・企業の連携システム）が支える、学校教育終了後から生涯にわたる継続的な学びの実践研究事業  
～コミュニケーション経験を基盤とする生活・就労支援プログラムの構築～

**主な対象** 知的障害者・発達障害者

**研究テーマ** 学校から社会への移行期 ○ 生涯の各ライフステージ ○

## 事業の趣旨・目的

- ☆生活や仕事から生じる疑問から始まる**主体性**ある学びの設計
- ☆障がいの有無を超え、地域の中でのゆたかなコミュニケーションから**相互に学ぶ**場づくり
- ☆地域や大学とつくる学びの場「**超大学（仮）**」の構築

## 学習プログラムの内容

- ① **くらしのちぐはぐ研究室**  
くらしの疑問を演劇でリアルに共有し、答えのない解決策を探るプログラム
- ② **超大学（仮）オンライン**  
障がい当事者が世の中の「あたりまえ」に問いを投げかけるプログラム
- ③ **わたしって○○＊This is me！**  
自分らしさを表現しながら、時間と場所を超えてつながり合うプログラム
- ④ **勝手に検討会（障害者計画編）**  
頼まれてもいないのに、自分たちで勝手に検討してみるプログラム
- ⑤ **オンラインってそういうことか！**  
オンラインを活用し、学習発表やワークショップ、部活動を楽しむプログラム



② 超大学（仮）オンライン ④ 勝手に検討会（障害者計画編） ⑤ オンラインってそういうことか！

## 事業実施体制・連携先



## 研究の成果と課題

☆日頃からリアルな場だけでなく、SNSを併用したコミュニティづくりを実施していた結果、コロナ禍でもつながりを絶やすことなく、**オンライン**による**学びの場を継続**することができた。「緊急事態宣言」「3蜜」などを学ぶ機会もつくり、**感染予防や2次的被害の防止**にもなったと言える。**防災**の観点からも経済的理由等でネットワーク環境がない人への整備を早急にする必要がある。

☆コーディネーターが当事者と**日常的かつ立場を超えた関係**をつくることで、潜在化している生活や仕事における疑問・困難・希望＝学びのニーズが表出した。当事者発の話し合いをベースにした**学びの機会**は、彼らの日々の生きづらさの解消だけでなく、**生きる意欲自体を育む**ことに繋がっている。当事者らが「学ぶことで変化した自分＝学びの成果」を語る姿は、**縦割りをも超え**、次期練馬区障害者計画に「障害者の学び」の文言を新たに明記することに繋がった。

☆コロナ禍で新しいカタチへの**進化**が求められているように、当事者発の学びは社会の**常識や当たり前への問いかけ**となり、かかわる相手に変化をもたらしている。障がいの有無によらず、誰もが日常に学びを取り戻すきっかけを社会の中に生み出し、**新しい価値を創造する社会づくり**に繋がっていると見える。

## その他研究の詳細など

☆くわしくは成果報告ポスターをご覧ください☆

法人 ホームページ	活動紹介 MOVIE	成果報告 ポスター	①くらしの ちぐはぐ研修室	③わたしって○○ This is me！	⑤ オンラインって そういうことか！